

【復興支援道路】

一般国道 397 号小谷木橋工区の整備が進んでいます！！

～ 地域で末永く親しまれる橋梁の整備を目指して ～

県南広域振興局土木部

【（仮称）新小谷木橋の現場見学会を開催しました！】

県が「復興支援道路」として平成 24 年度から奥州市水沢区で整備を進めている一般国道 397 号小谷木橋工区の整備が進んでいます。

平成 28 年 5 月 31 日、6 月 1 日には、奥州市立羽田小学校の地域学習の一環として、（仮称）新小谷木橋下部工工事の現場見学会を開催し、5 年生、6 年生の児童が参加しました（5 月 31 日：5 年生 26 名、6 月 1 日：6 年生 26 名）。現場見学会では、小谷木橋工区の歴史や事業計画等を学んだ後、（仮称）新小谷木橋の下部工（P3※）の現場を間近で見学しました。

※ 北上川右岸から 3 番目の橋脚

【子どもたちの想いを橋に託して】

また、本現場見学会では、（仮称）新小谷木橋の下部工（P3）の基礎部に、羽田小学校児童が「未来の羽田地区に託す想い」をペイントしました。奥州市と一関市にまたがる北上山地のエリアは、国際リニアコライダー（ILC）の建設候補地になっていることもあり、児童の皆さんは「ILC の誘致が成功し羽田も人口が増え住みやすい町になってほしい」、「ILC ができて水沢江刺駅が ILC の玄関口になってほしい」など、未来の羽田地区を思い浮かべながら楽しそうにペイントしていました。

児童の皆さんが書いた「未来の羽田地区に託す想い」のペイントは、橋梁完成後も橋の一部として残り続けますので、（仮称）新小谷木橋を将来にわたり、身近な社会資本として感じていただくことを期待しています。

【今後の取組】

小谷木橋工区は、現在、（仮称）新小谷木橋の 3 基の下部工（P1、P2、P3）が完成し、今年の秋頃からは新たに 4 基（A1、P5、P7、P9）の下部工工事を進めていきます。

県では、今年を「本格復興完遂年」と位置付け、本格復興をやり遂げ、次につながるよう強力で復興を推し進めており、小谷木工区についても早期完成に向けて、全力で事業を推進していきます。



羽田小学校 5 年生



羽田小学校 6 年生



下部工にメッセージをペイントする児童たち



完成した下部工

【小谷木橋工区の事業概要】

一般国道397号の小谷木橋（593.5m）は、東北新幹線水沢江刺駅や鋳物工場等が立地する奥州市水沢区羽田町地区と奥州市中心部を結び重要な橋梁です。

また、一般国道397号は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波の際、県内陸部と大船渡市や陸前高田市を結び道路として、自衛隊や消防、救援物資等の輸送等の重要な役割を果たしました。

しかし、小谷木橋は、橋の幅員が狭く、大型車のすれ違いが困難であるほか、昭和29年の架橋から60年以上が経過して老朽化が進んでおり、安全で円滑な通行の支障となっています。

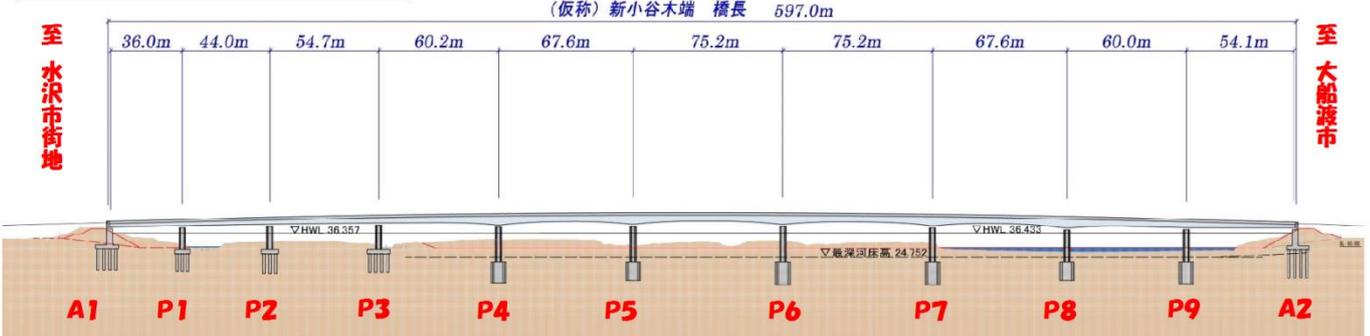
さらに、平成23年4月7日に発生した東日本大震災津波の余震では、小谷木橋の橋脚が傾き、約4ヶ月間の全面通行止めとなるなど、甚大な被害が発生しました。

このため、県では、岩手県東日本大震災津波復興計画（三陸復興道路整備事業）で一般国道397号を「復興支援道路」として位置付け、小谷木橋の架替え（仮称）新小谷木橋：597.0m）を含む小谷木橋工区の整備を重点的に進めています。

小谷木橋工区の事業計画



（仮称）新小谷木橋の計画



名称	構造	
（仮称）新小谷木橋	延長 (m)	597.0
	上部工	鋼10径間連続合成2主鉄桁
	下部工	逆T式橋台（杭基礎） 壁式橋脚（杭基礎、ケーソン基礎）

